

言語教育研究科履修要項

I. 言語教育研究科 授業科目・単位

(博士前期課程)

英語教育学専攻

系 列	学 科 目	単 位	学 科 目	単 位
英 語 教 育 学	英語教育学特論Ⅰ (英語教育論)	2	英語教育学特論Ⅴ (英語授業論)	2
	英語教育学特論Ⅱ (英語教育評価論)	2	英語教育学特論Ⅵ (第二言語習得)	2
	英語教育学特論Ⅲ (英語教育方法論)	2	英語教育学特論Ⅶ (児童英語教育論)	2
	英語教育学特論Ⅳ (英語教育教材論)	2		
言 語 学 ・ 英 語 学	言語学特論 (対照言語学)	2	英語学特論Ⅳ (英語意味論)	2
	英語学特論Ⅰ (英語文法論)	2	英語学特論Ⅴ (英語語用論)	2
	英語学特論Ⅱ (英語史)	2	英語学特論Ⅵ (英語コーパス学)	2
	英語学特論Ⅲ (英語音韻論)	2		
英 語 コミュニケーション学	英語コミュニケーション特論Ⅰ (コミュニケーション論)	2	英語コミュニケーション特論Ⅵ (英語コミュニケーションⅡ)	2
	英語コミュニケーション特論Ⅱ (異文化・国際理解教育論)	2	英語運用能力特殊研究Ⅰ	2
	英語コミュニケーション特論Ⅲ (日英比較表現論)	2	英語運用能力特殊研究Ⅱ	2
	英語コミュニケーション特論Ⅳ (視聴覚教育・CALL)	2	英語運用能力特殊研究Ⅲ	2
	英語コミュニケーション特論Ⅴ (英語コミュニケーションⅠ)	2	英語運用能力特殊研究Ⅳ	2
各 分 野 共 通	言語学特論 (一般言語学)	2	中国語学特論	2
	音声学・音韻論特論	2	中国語学特殊研究	2
	言語教育学特論 (SLA 研究における統計処理)	2	スペイン語学特論	2
	言語情報処理研究 (CALL 研究)	2		
特別演習 (論文指導)	英語教育学特別演習	—	英語コミュニケーション学特別演習	—
	言語学・英語学特別演習	—		

日本語教育学専攻

系 列	学 科 目	単 位	学 科 目	単 位
言 語 学 ・ 日 本 語 学	日本語学特論Ⅰ (文法・統語論Ⅰ)	2	日本語学特論Ⅴ (文字・表記)	2
	日本語学特論Ⅱ (文法・統語論Ⅱ)	2	日本語学特論Ⅵ (日本語史)	2
	日本語学特論Ⅲ (語彙・意味論)	2	日本語学特論Ⅶ (コーパス日本語学)	2
	日本語学特論Ⅳ (音声学)	2		
日 本 語 教 育	日本語教育学特論	2	日本語教育評価法	2
	日本語教授法Ⅰ (理論)	2	カウンセリング理論 (異文化対応)	2
	日本語教授法Ⅱ (実習)	1	日本語運用能力特殊研究Ⅰ	2
	日本語教授法Ⅲ (実践研究)	1	日本語運用能力特殊研究Ⅱ	2
	音声指導法 (理論と実践)	2		
日本文化・比較文化論	日本語教育教材論	2		
	日本文化特論Ⅰ (言語文化論)	2	比較文化論Ⅱ (日-アジア)	2
	日本文化特論Ⅱ (日本文化基層論)	2	異文化交流論Ⅰ (異文化間コミュニケーション)	2
各 分 野 共 通	比較文化論Ⅰ (日-欧米)	2	異文化交流論Ⅱ (国際理解教育)	2
	言語学特論 (一般言語学)	2	中国語学特論	2
	音声学・音韻論特論	2	中国語学特殊研究	2
	言語教育学特論 (SLA 研究における統計処理)	2	スペイン語学特論	2
特別演習 (論文指導)	言語情報処理研究 (CALL 研究)	2		
	日本語学特別演習	—	日本文化・比較文化論特別演習	—
	日本語教育学特別演習	—		

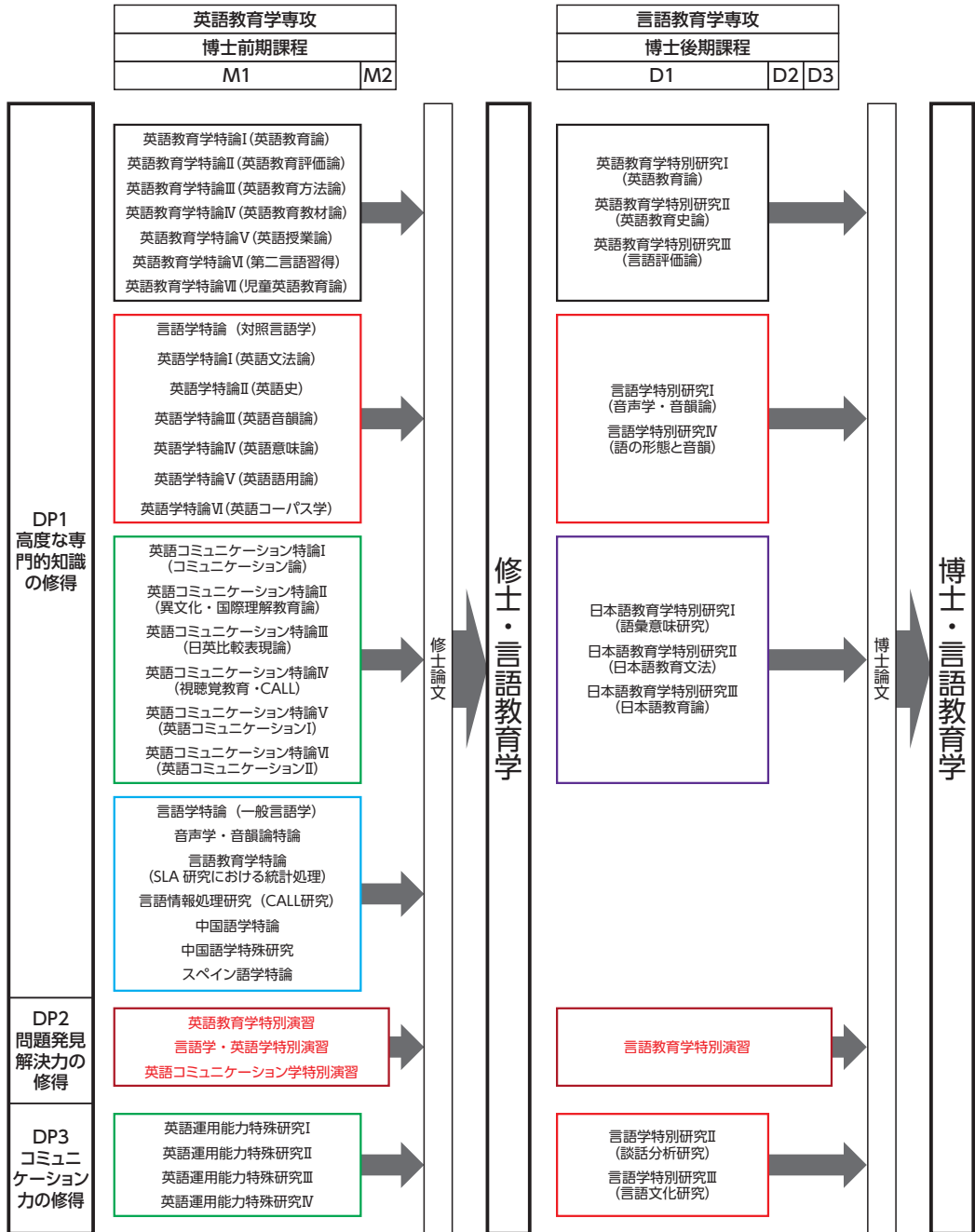
(博士後期課程)

言語教育学専攻

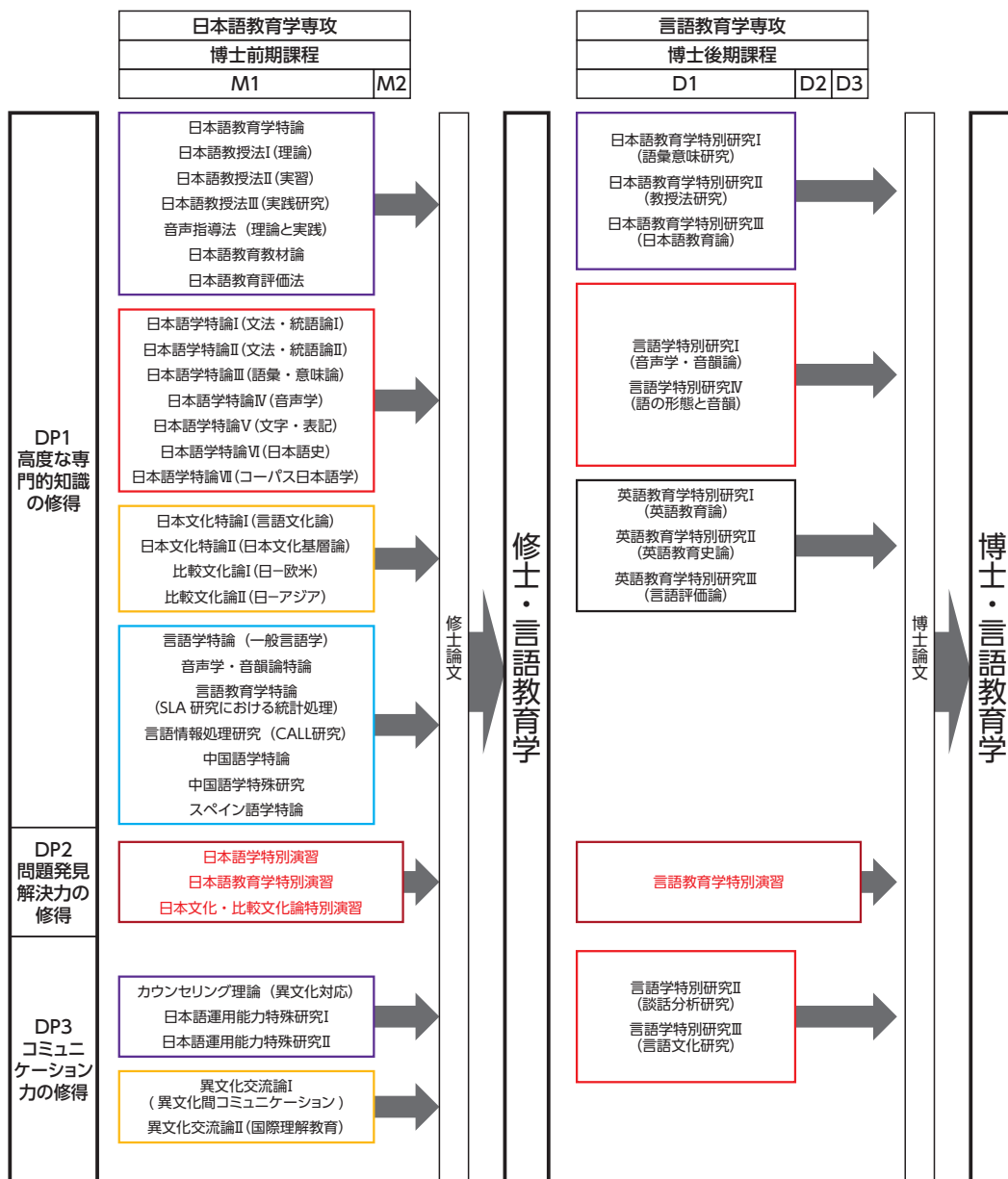
系 列	学 科 目	単 位	学 科 目	単 位
英 語 教 育 学	英語教育学特別研究Ⅰ (英語教育論)	2	英語教育学特別研究Ⅲ (言語評価論)	2
	英語教育学特別研究Ⅱ (英語教育史論)	2		
日 本 語 教 育 学	日本語教育学特別研究Ⅰ (語彙意味研究)	2	日本語教育学特別研究Ⅲ (日本語教育論)	2
	日本語教育学特別研究Ⅱ (日本語教育文法)	2		
言 語 学	言語学特別研究Ⅰ (音声学・音韻論)	2	言語学特別研究Ⅲ (言語文化研究)	2
	言語学特別研究Ⅱ (談話分析研究)	2	言語学特別研究Ⅳ (語の形態と音韻)	2
特別演習 (論文指導)	言語教育学特別演習	—		

カリキュラム・ツリー（履修系統図）

カリキュラム・ツリーは、カリキュラム・マップの「授業科目とDP（到達目標）との対応関係」に基づき、授業科目間のつながりや履修の段階・順序を表すものです。



※ 凡例 黒色枠：英語教育学 赤色枠：言語学・英語学（後期課程は言語学） 緑色枠：英語コミュニケーション学
 青色枠：各分野共通 茶色枠：特別演習（論文指導） 紫色枠：日本語教育
 朱書き文字：必修（指導教員の演習科目）



※凡例

赤色枠：言語学・日本語学	紫色枠：日本語教育	黄色枠：日本文化・比較文化論	
青色枠：各分野共通	茶色枠：特別演習 (論文指導)	黒色枠：英語教育学	
朱書き文字：必修 (指導教員の演習科目)			

言語教育研究科における学位論文について

I. 学位取得までの指導スケジュール

博士前期指導要領

1. 趣旨

2年間の正規の修業年限内に学位論文を提出し、論文審査に合格し、修士の学位を取得できる研究指導体制を次のように整える。

- (1) 論文指導は、指導教授と相互に綿密な連携を取りつつ適切な指導体制を組織する。
- (2) 1年次に研究計画に基づく専門的な知識の評価を行う、2年次では研究計画に基づく論文作成指導を行い、論文を完成させ提出する。
- (3) 所定の単位数修得の為、修業年限内での論文作成が上記(2)の手順に沿って支障なく進行するよう、指導教授が助言と指導を行う。

1 1年次

- (1) まず、1年次にできるだけ修了に必要な単位を取得するように指導する。学生は、履修する際に、指導教授と相談し、科目や履修単位数などを決定する。
- (2) 学生は、毎週行われる「特別演習」に出席し、指導教授から研究指導を受け、研究題目を決定する。題目は言語教育に関連するものでなければならない。さらに、この題目に合った研究内容、方法などを決め、「研究計画書(案)」を指導教授に提出する。指導教員は「研究指導計画書」を作成し、それに基づいて指導を行っていく。
- (3) 「特別演習」では、学生自身が設定した特定の研究課題に即した問題を取り上げ、問題設定の可否、文献検索、分析調査の方法等に関して指導助言を行う。学生は、指導教授の指示に従い調査研究の内容を発表し、グループ・ディスカッション等の討議を経て研究内容を固めていく。

時期	指導内容
4月	・新入生ガイダンス
5月	・研究計画書提出(院生⇒指導教授) ・上記を踏まえ、研究指導計画書提出(指導教授⇒院事務室)
6月	・修士論文中間発表会(参加と運営補助)
7月	・研究年報『言語教育研究』投稿募集
10月	・修士論文発表会(参加と運営補助)

2 2年次

- (1) 2年次には、学生は1年次の研究を踏まえ、論文作成に関する「研究計画書(本案)」をさらにまとめあげ、指導教授に提出する。指導教授は「研究指導計画書」を作成し、指導教授は、これに基づいて、更に必要な指導助言を行う。最終的に報告に基づき、「修士論文」作成の許可を学生に与える。
- (2) 指導教授は、毎週行われる「特別演習」では、1年次と同様、学生自身が設定した特定の研究課題に即した問題を取り上げ、問題設定の可否、文献検索、分析調査の方法等に関して指導・助言を行う。学生は、指導教授の指示に従い調査研究の内容を発表し、グループ・ディスカッション等の討議を経て研究内容を固めていく。その結果を前期に行われる「修士論文中間発表会」で報告し、他の教員、学生からの指導、助言等を受ける。
- (3) 学生は、「修士論文中間発表会」での指導、助言等を受け、指導教授の指導のもと、研究を進め、具体的な論文執筆に入り、夏休みの間にほぼ内容をまとめる。その結果を後期の初めに行われる「修士論文発表会」で発表し、他の教員、学生などからの指導、助言等を求める。
- (4) 学生は「修士論文発表会」での指導、助言等を受け、指導教授の指導・助言のもと、修

- 士論文を完成させていく。
- (5) 学位論文作成（執筆言語）
英語教育学専攻においては、「英文」または「日本語」により作成する。日本語教育学専攻においては、「日本語」により作成する。
- (6) 学生は課程修了に必要な単位を取得（修得見込を含む）し、指導教授から、修士論文作成のための必要な研究指導を受けた者は、指導教授の承認を得て11月に修士論文審査の申請を行い、12月に論文を提出する。
- (7) 論文の提出を受け、言語教育研究科委員会は、それを審議し、受理の可否の決定をする。決定と同時に「学位審査委員会」を設ける。
- イ) 学位審査委員会は、指導教授を主査とし、研究科委員会において選出された副査1名以上をもって構成することを原則とする。
なお、論文内容によっては、他大学等の教員を学位審査委員会の委員として加えることができる。
- ロ) 審査委員会は、論文の評価、および合否を決める。
- ・○修士論文審査基準
修士論文の審査にあたっては、次の点を考慮し評価を行う。
 1. 研究テーマの適切性・妥当性について
 2. 先行研究、文献資料、調査などの情報収集の適切性・妥当性について
 3. 研究方法の適切性・妥当性について
 4. 論旨の明確さ、および妥当性について
 5. 以上の基準を満たしたうえで、全体の構成、言語表現が適正で、「論文」としての体裁が整っていること。
 6. 研究方法、内容、結論等に幾ばくかの独創性を持っていること。
 - ハ) 論文が合格した者に対して、審査委員会は、最終試験（口述試験）を行う。最終試験（口述試験）は、学位論文の内容を中心とし、それと関連する学識と研究能力について、主査・副査により口頭で行う。なお、筆記試験をあわせて行うことができる。
- (8) 学位の授与
学位取得に必要な要件を満たし、学位論文の審査に合格し、最終試験（口述試験）に合格した者は、修士（言語教育）の学位が与えられる。
以上の手続きは、学位規定による。

時 期	指 導 内 容
4 月	・履修ガイダンス
5 月	・研究計画書提出（院生⇒指導教授） ・上記を踏まえ、研究指導計画書提出（指導教授⇒学務課（大学院））
6 月	・修士論文中間発表会（報告）
7 月	・研究年報『言語教育研究』投稿募集 ・博士後期課程完成論文発表会（参加）
10月	・修士論文発表会（発表）
11月	・学位（修士）申請書提出（院生⇒指導教授⇒学務課（大学院））
12月	・修士論文提出締切り
1 月	・修士論文口述試験
3 月	・学位記（修士）授与式

Ⅲ. 学位取得までの指導スケジュール

博士後期課程研究指導要領

1. 趣旨

3年間の正規の修業年限内に学位論文を提出し、論文審査に合格し、博士の学位を取得できる研究指導体制を次のように整える。

- (1) 論文指導は、毎週行われる「言語教育学特別演習（論文指導）」に出席し、指導教授から適切な指導を受ける。
- (2) 1年次に研究計画に基づく専門的な知識の評価を行う、2年次では研究計画に基づく遂行に関する評価を行い、3年次に研究計画に基づく論文作成指導を行う。
- (3) 所定の単位修得（単位10単位以上）、研究発表2回以上（学外での発表を1回以上含む）、紀要・学会誌等への掲載論文（単著）2編以上、外国語検定試験合格、以上を博士学位申請要件とし、これを早期に達成できるように、指導教授が助言と指導を行う。

1 1年次

- (1) 学生は指導教授の指導のもと、博士論文の題目を決め、その概要、研究方法などを決定する。決定した題目、その概要、研究方法などを「研究計画書」として指導教授に提出する。指導教授は、「研究指導計画書」を作成し、指導を行っていく。
- (2) 指導教授は「言語教育学特別演習」で論文執筆に関わる指導を行い、論文の内容の検討・充実を図る。そのために関係文献の精読・データ収集や調査などを行わせる。その研究成果は、研究発表会、紀要（『言語教育研究』）、学会等で発表していくように指導していく。

時期	指導内容
4月	・新入生オリエンテーション ・研究計画書提出（院生⇒指導教授）
5月	・研究指導計画書提出 （指導教授⇒学務課（大学院））
7月	・紀要『言語教育研究』投稿募集 ・【前期】研究発表会
10月	・外国語検定試験
12月	・【後期】研究発表会

2 2年次

- (1) 学生は、1年次同様、2年次も「研究計画書」を指導教授に提出し、指導教授は「研究指導計画書」を作成し、それに基づいて指導を行っていく。学生は毎週行われる「言語教育学特別演習」に出席し、そこで論文執筆に関わる指導を受け、指導教授のもと論文の内容的な検討・充実を図る。そのために関係、文献の精読・データ収集や調査などを行っていく。その研究は、研究発表会、紀要（『言語教育研究』）、学会等で発表する。

時期	指導内容
4月	・履修オリエンテーション ・研究計画書提出（院生⇒指導教授）
5月	・研究指導計画書提出 （指導教授⇒学務課（大学院））
7月	・紀要『言語教育研究』投稿募集 ・【前期】研究発表会
10月	・外国語検定試験
12月	・【後期】研究発表会

3 3年次

- (1) 3年次も指導教授に「研究計画書」を提出し、指導教授は「研究指導計画書」を作成し、それに基づいて指導を行っていく。
- (2) 3年次は、2年次までの研究に基づき、指導教授の指導・助言を得て博士論文を完成させる。博士論文が完成し、指導教授がこれを承認した時点で研究科委員会に博士論文受理審査会の申請を行う。
- (3) 博士論文受理審査会で可決あるいは条件付きで可決された場合、指導教授は博士論文修正等の指導を行い、博士論文審査委員会に学位申請書と論文を提出させる。

時 期	指 導 内 容
4 月	・履修オリエンテーション ・研究計画書提出（院生⇒指導教授）
5 月	・研究指導計画書提出 （指導教授⇒学務課（大学院））
7 月	・紀要『言語教育研究』投稿募集 ・【前期】研究発表会
9 月	・学位論文提出（博士論文受理審査会）
11月	・学位論文・学位申請書提出 （博士論文審査委員会）
1 月	・最終試験（口述試験）
2 月	・修了者の決定（言研委員会） ・進路希望確認
3 月	・学位（博士）授与